

中期経営計画 2025【概要版】

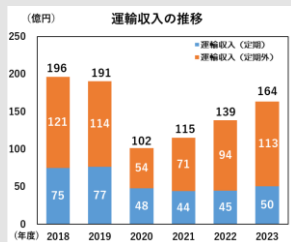
東京臨海高速鉄道株式会社

I 計画の位置づけ

- 前計画では「コロナ禍による業績悪化の克服」「ポストコロナの環境変化に対処できる経営基盤の構築」を軸として、取組を推進し、概ね達成
- 当社の経営状況や事業環境の変化を踏まえ、2025～2027年度を対象とする本計画は「持続的な経営と新たなステージにおける事業展開」を目指し、成長への道筋をより確かなものにする計画と位置づけ
- 環境の変化や直面する諸課題に適切に対応し、安全・安定輸送の確保とともに経営基盤を強化

II 当社を取り巻く環境変化と課題認識

- 定期利用者の回復が緩やかな一方、臨海副都心エリアの特性から定期外利用者は堅調。今後、利用者増に向けた新たな取組が必要
- 開業後30年近くを迎える施設・設備等の大規模な更新や修繕を進めることが不可避
- また、コストの増加、働き手の不足に加え、DXやAIなどの先進テクノロジー、豪雨・地震といった災害リスク、脱炭素化への潮流など、急速かつ多様な環境変化への対応も必要
- さらに、区部中心部と開発が進む臨海地域をつなぐ基幹的な交通基盤となる都心部・臨海地域地下鉄について、東京都等と連携して事業計画を検討



- 重点課題**
- 施設・設備等の更新や修繕
 - お客様ニーズへの対応
 - 環境負荷低減に向けた社会的要請への対応
 - 人材の着実な確保と育成
 - 増大するさまざまなリスクへの対応
 - 移動需要の変化を踏まえた沿線地域との連携
 - 財務健全性の向上
 - 誰もが活躍できる組織づくり

III 経営方針・経営目標

- 当社が長期的に目指す将来像を示すとともに、2025～2027年度の3年間における3つの「経営方針」と、これに基づき具体的取組を進めるテーマとして4つの「経営目標」を設定

- 長期的な将来像
- ① 安全で安定した輸送を基礎として、あらゆるお客様の信頼に応える先進的な輸送サービスを提供
 - ② 広域鉄道ネットワークの充実・発展の一端を担い、ベイエリアの活性化に貢献
 - ③ エネルギー効率に優れた交通手段として、環境先進都市である臨海副都心のプレゼンス向上に寄与
 - ④ 企業として持続的な成長を遂げ、事業を支える盤石な経営基盤を構築

■ 経営方針

- 一 鉄道事業の使命である安全・安定輸送を確保し、お客様の安心を確かなものとするとともに、さらなるお客様サービスの向上を目指して、今後またゆみなく努力を続けていきます。
- 二 臨海副都心を支える基幹的公共交通機関として、沿線地域の活性化に貢献するほか、東京圏における広域鉄道ネットワークの機能強化を図るため、新規路線に係る事業計画の検討に参画するとともに、りんかい線のさらなる利便性の向上に努めていきます。
- 三 事業環境の目まぐるしい変化の中にも的確に成長の芽を捉え、効率的な事業運営を行い、収益力を高めるとともに、社員一人ひとりの能力向上といきいきと働ける職場づくりに努め、企業として持続的な発展・成長を続けていきます。

■ 経営目標

- ①安全・安定輸送の確保と安心の提供
- ②お客様サービスの向上
- ③沿線地域の発展と持続可能なまちづくりへの貢献
- ④着実な事業運営に向けた経営基盤の強化

IV 目標達成に向けた具体的取組

1 安全・安定輸送の確保と安心の提供

◆安全管理体制の充実

- 経営層を含めた社員向けの運輸安全マネジメント研修を充実



経営層による輸送安全総点検



- 様々な事故等を想定した異常時総合訓練や、輸送安全総点検を実施
- 一乗車を用いたお客様の避難誘導訓練

◆駅構内・車内の安全性の向上

- 警察署と連携し、犯罪を想定した訓練を実施
- 車両更新に伴い、全車両に複数の防犯カメラや非常通話装置を導入



駅における不審者対応訓練



車内の防犯カメラ (新型車両)

◆災害対策の取組推進

- 橋りょうの耐震補強に着手
- 止水板設置訓練など風水害を想定した訓練を実施



鉄道高架橋の橋脚耐震補強

◆ホスピタリティの向上

- 覆面調査による実践的な接客研修を実施
- AIを活用した遺失物検索サービスを導入
- ユニバーサルコミュニケーション機器の導入を検討



接客研修

2 お客様サービスの向上

◆車両や施設の利便性・快適性の向上

- 新型車両を導入
- 大井町駅にエレベーターを増設
- ホームと車両の隙間対策を実施 (くし状ゴムの増設)



新型車両 (71-000形)

ホームドア

3 沿線地域の発展と持続可能なまちづくりへの貢献

◆地域や沿線まちづくりとの連携強化

- 臨海副都心エリアにて新規施設等と連携し、新たな定期外利用者を獲得
- 沿線エリアの魅力発信の強化により来訪者を誘致



開業予定のスポーツアリーナ

◆環境負荷低減に向けた取組強化

- トンネル、機器室内照明のLED化を推進
- 国際展示場駅に太陽光パネルを設置
- 非化石証書の活用による使用電力を一部脱炭素化
- 環境負荷の少ない新冷媒等を使用する機種を採用



トンネル照明のLED化

◆「都心部・臨海地域地下鉄」の事業計画の検討

- 事業計画を東京都や鉄道・運輸機構と連携して検討

4 着実な事業運営に向けた経営基盤の強化

◆収益向上に向けた取組

- 沿線イベントと連動したジャケット広告を獲得
- 駅構内スペースへの新規テナントを誘致



新規テナント (東京テレポート)

◆社員一人ひとりが活躍できる職場づくり

- より広くアプローチする効果的な採用活動を実施
- 社員満足度調査の結果を踏まえた取組を実施
- DX活用による設備管理や、文書決裁等を効率化
- キャリアアップ支援等により女性活躍を促進
- カスタマーハラスメント対策方針の策定



活躍する当社社員

V 設備投資計画と数値目標

(1)設備投資 (計画額) の推移 (2)主な設備投資 (億円) (3)数値目標



- 新型車両の導入 (122)
- エスカレータ更新 (11)
- 運行管理システム更新 (10)
- 有明変電所の更新 (10)
- ホームドア設置等 (9)

指標	数値目標	指標	数値目標
営業収益	211億円	自己資本比率	50%
経常利益	35億円	金融債務残高	871億円
		鉄道運転事故件数	0件